

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

本日4番目でございますが、大変朝早くから議会始まっておりますけれども、議長の登壇のお許しをいただきましたので、ただいまから21番吉原武藤の一般質問を始めさせていただきます。

通告に従いまして、まず初めに環境問題について質問をさせていただきます。

国会も自民党政権から民主党政権へ移り、各政策にも変化が見られるようであります。環境問題につきましても、鳩山首相は温暖化を食いとめる戦いは、今世紀の人類が全力で取り組まなければならない最重要課題である。日本は、2020年までに1990年比で25%の温室効果ガス削減の国際公約が発表をされました。

森林のCO₂吸収機能は広く知られているようでございますが、海の植物群の恩恵は余り知られていないのが実態ではないでしょうか。日本の海岸に広く分布する遡上や亜熱帯のマングローブ林など、沿岸の生態系は地球温暖化防止に大きく役割を果たしていることが明らかになったそうでございます。

国連環境計画で求めた調査報告書によりますと、沿岸の生態系は、毎年日本の年間排出量を上回る二酸化炭素を吸収すると言われております。沿岸には、強い太陽光が届く海洋植物群落がありまして、光合成は非常に盛んで、毎年世界全体のCO₂排出量の約6%に当たる16億5,000万トンのCO₂を吸収していると報告がなされております。また、遡上やマングローブ林は、漁業資源育成にとりましても重要な役割を持っていて、河川から流入する窒素や磷を吸収し、水質浄化にも貢献をしていると言われております。

そのような中、私は河川の水質浄化についてお尋ねをいたしたいと思っております。

武雄市には、国土交通省が直轄管理をする六角川、松浦川がありますが、定期的に水質検査が行われていると思っております。市内何カ所で行われているか。また、BOD、いわゆる生物化学的酸素要求量排出基準の国の数値をまずお尋ねさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、調査箇所ですが、六角川水系で12カ所、それから松浦川水系で4カ所、計の16カ所行っております。これを年3回ずつの計測を行っているというところでございます。

それと、基準でございますが、基準にはA類型とD類型がございます。A類型が六角川の大日堰より上流部をA類型、そして、それから下流についてはD類型でございます。松浦川はすべてA類型ということになっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、A類型とD類型ということで説明がありました。そしてまた、検査の箇所が、松浦川4カ所、六角川12カ所、都市の下水路が5カ所あっておりますけど、今、A類型では2ppmですね、D類型は何ppmですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

D類型は、環境基準では8ppmとなっております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

きょう資料をいただきましたけれども、その前にいただいた資料がございます。

私はこの環境基準、要するに水質検査の基準は、またこの後にも質問しますけれども、年々水質がよくなっているかなというふうに思っておりました。そしたら、年3回検査をされておりますけれども、よかったときと悪かったとき、非常に差が激しいんですね。

私、ずっと昔、一般質問をしたときの資料を持っておりまして、富岡下水路を平成元年に検査をした資料がありました。平成元年10月に109.2ppm、そして、平成元年12月に77ppmというように物すごく高かったのが、ことしの21年8月には2.2ppmということで非常に下がっております。しかし、2.2ppmですけれども、21年4月には6.2ppmということで、非常にばらつきがあるんですね。

もう1つですけれども、高橋下水路につきまして、この資料は平成18年4月に22ppm、18年8月には63ppm、19年4月には6.1ppm、そしてまた、高かった月は21年1月に45ppm、21年4月には6.8ppm、そして、ことしの21年8月には16ppmと、非常に差があるんですけれども、この差についていかがだと思いますか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員にお答えする前に、ちょっとグラフを持ってきておりますので、グラフで説明させていただきます。（グラフを示す）

これが、武雄市内におけるAタイプの西川登の弓野のところで測ったやつと、松浦川の毘沙門橋のところで測ったやつでございます。これでいきますと、A類型というのは環境基準が、このラインが2ppmですけれども、2ppmのところをぐっと下回って、平均して弓野のほうは1.1ppm、それと松浦川水系の毘沙門のほうでは0.8ppmということで、Aタイプの

分では十分まだまだきれいだというところでございます。

それから、D類型ですね。D類型は、六角川の大日堰よりも下流部分でございますが、六角川水系の下流部分で、これは上のほうが戸樋渡橋、そして下のほうが高橋橋、これは武雄川とか甘久川のほうに関連するところでございますが、戸樋渡橋のほうで、平均しまして3.47ppm、それから高橋橋のほうで1.48ppmというところで、ここは環境基準の8ppmからいきますと、まだまだ十分今のところはきれいだという状況になっております。

それで、今、議員、下水路の話をされましたけど、下水路の分をもう1つ見せます。

これが下水路の分でございます。確かに、議員御指摘のとおり、でこぼこがございます。これはそのときの気象ですね、気象によって物すごく違うわけですね。雨が降っているときの測量と、それから全然もう雨が降らんで日照りが続いた、水が少ないときというところで、でこぼこがございますが、これを見ましても、平均いたしまして高橋下水路が10.8ppm、それから矢洗下水路。矢洗下水路というのは川良のほうからおりてくる水路でございますが、6.9ppmでございます。そして、蓬莱下水路。蓬莱下水路は下西山、あるいは新町、本町、松原、こういうところの雑排水が流れてくるわけですが、そこで8.4ppmという平均値が出ております。それで、まだまだそんなに汚いということではございません。一応でこぼこはございますが、それはそのときの気象条件でも違うんじゃないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

加えて、比較論で申し上げますと、私は大阪府の高槻市に出向していたときに、河川の浄化担当を当時の市長から仰せつかりました。そのときに、武雄については、実は、いろんなデータを当時の武雄市の職員の方からいただいたこともあります。そのときの私どもの評価は非常にきれいだというのであります。これは、その当時から、婦人会のEM活動であるとか、あるいはさまざまな生活で余り雑排を流さないというような、本当に地に足のついた、婦人会を中心としたその活動がこういう数値にあらわれているということで、私は外にいたときからそのように評価をして、武雄市は何て下水路がきれいなんだろうというのが大方の評価であり、これはオールジャパンの河川の学会についても同じような見解であったということを申し上げたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

さっき、私、高橋下水路のことを言いましたけれども、この下水路についての基準という

のはあるんですか。

そして、もう1つお尋ねですけれども、今はAランクで2 p p m以内だと。Dランクでも8 p p m以内だからクリアしているということですが、これが、もしそれをオーバーした場合は、何かペナルティーがあるのかなのか。そして、今言った高橋下水路、要するに雨水路と下水路とがありますね。都市下水路のときで5カ所についての基準は幾らなのか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

都市下水路ということでの環境基準というのはございません。ただ、今の都市下水路というのは、武雄川に全部流れてくる六角川水系でございます。それでいけば、大日堰よりも上流じゃないということで、8 p p mが環境基準でございます。

それで、ここに対する放流基準というのが別にまたあるわけですが、放流基準については20 p p mでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

そしたら、下水路についても、一番悪いところで川良の雨水路が19 p p mですから、ことはクリアしているということですね。（発言する者あり）はい、わかりました。

では、この水質の問題については、最後に。先ほど市長がおっしゃったとおり、やはり婦人会とか、それから公民館活動でEM菌によるEMだんごをつくって投入をされております。朝日につきましても、6月17日、8月2日、10月11日というふうに、ことしも3回ほどEMだんごを投入されておまして、確かに、水質もSSの透明度も、上流のほうは大変きれいになっています。しかし、やっぱり下流のほうに行きますと、どうしても井堰で水が長くたまっておりますから、透明度が確かに悪いというようなことで、しかし、環境基準にはちゃんと合格しているわけですから問題はないというふうに思うところです。しかし、朝日町は川が汚いということで、もう十四、五年前から朝日川でハンギー大会を川の中に入れてしておりましたけれども、要するに川の汚染がひどいということで、保護者の方から中止をせろということで中止をして、今現在、クリーン作戦がまだ継続をされているところです。しかし、もうぼつぼつハンギー大会をしてもよくないかというような状態になっているようでございます。

では、次の問題に移りたいと思います。

次に、水質保全対策には汚水処理計画の取り組みがなされていると思います。つい最近の新聞、10月1日の新聞だったですけれども、汚水処理人口普及率というのが載っております。これでは武雄市は、これは2008年の末現在でございますけれども、普及率49.1%という

ことで、10市中で7位ということで新聞に記載をされております。これは、武雄市は県下で7位ということで、佐賀県は全国で38位ということでございます。そのようなことで、やはりこの水の浄化については、公共下水道なり、農村集落排水事業なり、戸別浄化槽なりで対応するのが一番の得策だろうというふうに思うところです。

そこで、まず公共下水道計画についてお尋ねをしたいと思います。

計画区域面積183ヘクタールがなされておりましたけれども、事業認可をいただいたのが32ヘクタールだろうと思います。そこで、平成22年までというふうになっていたと思いますけれども、この事業計画でそれは達成できるのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、22年度までで完成したいということで32ヘクタールを事業認可をとったわけですが、区画整理の関連で、どうしてもまだ永松地区、あるいは八並地区の分の区画道路が完成しておりませんので、そちらのほうが入り込まない状況でございます。それで今年度、事業認可区域をまた見直そうということで、今作業をやっているわけですが、32ヘクタールをまた、例えば、あと40ヘクタールとか50ヘクタールとかふやそうという計画でございます。それを来年度見直しまして、事業にまたその分を着手する予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今の説明で、事業認可32ヘクタールを見直して、そして、当然事業年度も見直すということですね。そしたら、佐賀新聞の報道によりますと、公共下水道については、0.5%の普及率だというふうになっておりますけれども、この普及率、それから幾らかは進んでおると思いますが、これは08年ですから、今現在の進捗状況はどのようになっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

公共下水道の普及率につきましては、汚水処理人口という形では出しておりません。この当時の、0.5%のときは20年度末でございますので、川端通りだけしか供用開始ができていなかったわけですね。今は本町のほうも供用開始できておりますので、それでいけば、川端のときは、公共升の設置基数が27基だったわけですね。今、利用できる公共升の設置基数、これが11月末現在では148ということで、約5倍にふえている状況でございます。そして、接続率としましては、まだ5分の1しか接続はあっておりません。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

そしたら、終末処理場の浄化センターについて、ちょっと質問したいと思います。

花島になりますかね、あそこには浄化センターができておりますけれども、今のところ1槽ですか、できております。区画面積183ヘクタール。それで、北方町の198ヘクタール、最終的には624.5ヘクタールぐらいの面積になると思いますけれども、その目標年度が大体平成40年ぐらいということで書いてあると思います。そこで、あの処理場で、要するに北方のこの198ヘクタールまで加えた総計の624ヘクタールをあそこに3基つくるようになるんですかね、5つですか。これをみんなあそこだけで賄えるということですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

花島地区に処理場をつくっておりますけど、今、処理槽としては600トンをつくっております。最終的に、あそこの今の計画では4,800トンでございます。ですから、600トンをつくっておりますね。ことし、あと600トンの分が設計に入っております。それで、来年からその600トンに入ると。その後は、1,200トンを3基つくります。だから、600、600、1,200、1,200、1,200と、こういう形での4,800トンでございます。

それで、この総トータル4,800トンは、183ヘクタールに対する処理場でございます。それで、排水処理基本計画では、武雄地区に公共下水道を約420ヘクタール、そして北方に約200ヘクタールという計画をしておりますが、この排水処理計画につきましても、見直しをしようというところで、今作業へ入っております。このままで約600ヘクタールを続けると、もう30年も40年もかかってしまうというところから、合併浄化槽をことしからスタートしたわけですが、合併浄化槽の市町村型に切りかえたいと私は今、計画の中では思っております。ですから、620ぐらいある公共下水道集合処理を、極力武雄の財政できる範囲にぎゅっと集合処理は縮めて、それ以外のところは市町村型に切りかえたほうが早く水洗化ができるんじゃないかと。早く水洗化ができることによって、公共水域の水質ももっと上がってくると。今でもきれいですが、もっと上がるというところがございます。そういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

はい、わかりました。要するに、公共下水道の区域を見直して、縮めて、そして戸別の合併処理浄化槽をふやしていこうという見直しということですね。はい、わかりました。

では、次に、農村集落排水事業について質問をいたします。

先ほどの佐賀新聞の記事ですけれども、農村集落排水事業につきましては、武雄市は人口比で20.9%ということになっているようです。今、この農村集落排水事業が行われたところをお尋ねしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

20.9%と先ほど議員言われたこの普及率につきましては、山内町と、それから武雄では矢筈地区、それから川内地区、そして北方の橋下地区、この8地区に対しての普及率が20.9%ということになっております。今後、排水処理基本計画でいきますと、農村集落排水事業はもうしないという計画でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この生活排水処理基本計画には、ほかのところも書いてありますね。結局、若木町の附防、皿宿、下村地区、鳴瀬、片白、西光寺、内田、大野原地区、日ノ出城、弓野地区というようなことを書いてありますが、これはやはりコストの面で余りかかると差がないから、要するに、戸別に切りかえようというようなことで、今の8地区だけで農業集落排水事業はこれで終わりということでもいいですね。

そしたら、現在、この8地区で農村集落排水事業が展開をされておりますけれども、その普及率といいますか、接続率をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

ちょっと、今、議員が言われた附防とか西光寺、ほかの地区は、それは生活排水処理基本計画が20年3月に改定されております。それは、ですから20年3月以前の計画でございます。そのときは、計画処理区は39か40か、そのくらいあったと思います。それが、どうしてももう農集をしようと思ったら、お金かかり過ぎて、とても武雄市の財政ではできんということから、8地区だけでももう農集には手をつけないということで変更しております。それが去年の3月のことでございます。

それと、今、質問にございました農集の接続率でございますが、山内はすべて農集で処理するということで5地区つくっております。その5地区は今、接続率としましては68.1%、これは11月末現在でございます。これは、まだ大野が19年にできたばかりですので、大野のほうはまだ47%ぐらいでちょっと落ちていきますので、全体的には68.1%と。それから、武雄でございますが、武雄が矢筈と川内と2地区でございます。これにつきましては、矢筈が

98.2%、川内が75.4%、計の86.7%でございます。そして、北方の橋下地区でございますが、今現在60.5%。それで、農集地区すべてをトータルしまして、68.1%という接続率でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

はい、わかりました。

やはり、接続率の向上にひとつ努めていただきたいというふうに思います。ちゃんとした費用はかかっているわけですから、やはり接続をして、そして採算ベースに乗るような方向性で持っていただきたいと思いますというふうに思います。

次に、浄化槽設置について質問をいたします。

今年4月1日から施行になりました戸別浄化槽、それから、以前から設置をしていた個人設置型の浄化槽、この違いを少し説明をお願いしたいというふうに思いますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

個人設置型も市町村型も戸別の浄化槽で処理するという、機能と方法そのものは変わりございません。平成12年（189ページで訂正）からやってきた設置に対する補助、これは何しろ個人が浄化槽を設置した場合に補助をしましょうと。例えば、5人槽やったら41万円ぐらいでしたかね。それで、今回、ことしから始まった市町村型は、個人さんが設置するんじゃなくて、市が設置して、市が維持管理まで見ましょうという事業でございます。ですから、個人が設置したとに補助金を出すか、市がもう真っすぐ設置して使用料を取るか、この違いでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今年4月1日から戸別合併浄化槽は始まったわけですが、今度の12月の補正予算で、個人設置型は非常に多かったとって60基から82基にふえたというようなことで、補正予算が1,300万円ほど出ておりますけれども、要するに、戸別とこの個人設置型と両方やっているうちに、こっちのほうも結局個人設置のほうも多くこれだけ出たということですか。

そして、私は、戸別が4月から施行になりましたので、こちらのほうが減るんじゃないかと心配をしておりましたけれども、そういう傾向はないですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

去年まで浄化槽設置に対して補助金をずっと出しておったわけですね。その場合、武雄市で大体年間150基ずつぐらいの進捗だったわけです。その150基ぐらいの進捗の中で、今度の排水処理計画の中の市町村型の区域と、集合処理の区域で割合を出したときに、大体60基ぐらいが集合処理区域内の浄化槽だなということで、当初60基見ておったわけですが、たまたま今回、今年度60基じゃなくて、その予想以上に集合処理区域内で浄化槽を設置する人が多かったというところから今回の補正に計上させていただいております。

そして、市町村型は120基、ことし予定しているわけですが、今、順調に設置して、大体予算消化はできるという見通しでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

戸別合併浄化槽、要するに今回の浄化槽事業の平面図というのをいただいておりますけれども、この斜線の部分は個人設置型でしてあるわけですね。そいぎ、この設置型のところに、この戸別を設置するというわけにはいかないわけですか。もう、これでぴしっと区域を決めているからだめだということですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

その斜線をつけてある部分ですね、武雄地区で420ヘクタール、北方の200ヘクタール、この区域以外しか市町村型はできないわけです。それで、420ヘクタールと200ヘクタールのこの集合処理区域内では個人設置型で、個人が設置した浄化槽に対する補助しか今の制度上はできません。そういうことで、いつまでも個人が設置したのに補助する形を今から30年も40年も、今のままでいけばとらにゃいかんということから、いつまでも水洗化が進まないということから、今、見直しをしている。その420ヘクタールとか200ヘクタールをぐっと縮めて、市町村型でやる区域に変えようというのが、今回見直している作業の主なところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

戸別合併浄化槽につきましては、今年は120基ですけれども、年間150基を20年間で3,000基ですか、こういうことで計画がなされておりますけれども、大体その見通しというのですか、まだ始まったばかりですからわかりませんが、どうなるかということ。

もう1つ、今、個人設置型を設置しておいて、それを寄附すると、戸別のほうに寄附をす

るという制度が設けられておりますけれども、ここのことについて、区域のこともあるし、ですから、そこら辺についてちょっとお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

今まで、個人で設置して補助金をもらってある方がおられるわけですね。そういうところに、例えば、私は出身が大日ですけど、大日でそういうような人がおられると。大日は、今の制度は、今年度から市町村型をする区域になったわけですね。そしたら、市町村型で設置してもらった人、自分で設置して補助金をもらった人、ここで市町村型で設置した人は維持管理、市が見るわけですよ。こっちの自分で設置した人は、自分で維持管理、見ていかにかいかなと、こういう不公平が出ますので、そういう市町村型の区域の人で、自分で設置した人、自分で管理している人は寄附してもらえれば、市で維持管理しますよ。そして、維持管理して、市に寄附しんさつき、維持管理します。だから、その後は使用料をちょうだいするという形で、市町村型と同等に変えますよ、どがんですかという形の今の寄附ですね、そういう形になっています。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

これは、ことし4月1日から施行になったわけですから、幾らかそういう寄附された方がありますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

寄附申し出た方はおられます。それで、現にその寄附を受けて、市が維持管理をしているという実績があります。ただ、今、ここでちょっと基数については持ち合わせておりませんので、何しろそういうふうにして寄附された方はもう10人以上、20人近くおられると私は思っています。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

私、きょうの最初に水問題を質問しましたがけれども、これがもっと普及することによって、河川の水が非常にきれいになるのではないのかということで、関連した質問をさせていただいたわけです。

次に移りたいと思います。次は、住宅用の太陽光発電システムについてを質問させていた

だきます。

今現在、武雄市に住宅用の太陽光発電システムの設置状況がどうなのかというのを質問させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

武雄市内で今243件ということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

私がもらった資料には、武雄市内での設置件数436件、21年10月現在と書いてありますけれども、これ、私、環境課からいただいた資料ですけれども、間違いはないですか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

訂正いたします。436件で間違いございません。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この太陽光発電の補助システムで、6月の補正で市長、頑張ってください、この補助制度をしていただきました。そのようなことで、20万円を限度に400万円の予算をしていただいて、そして公募されたですけれども、非常に応募者が多かったというようなことで、また、今度の12月補正予算で1,015万円ですか、補正を提案されております。このことについて、私もこの20件の400万円ということで、本当に集まるかなと思っておりましたけれども、非常に多かったということでございます。その状況はどのような状況だったのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

状況につきましては、個人、あるいは業者の方、一部ちょっと団体の方がいらしておりますので、そういった意味ではさまざまな方に御応募をしていただいたという認識がございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

〇21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この間の新聞にも載っておりましたが、この太陽光発電の住宅用の普及率は、佐賀県は全国でトップらしいです。それで、これはこれからまだ普及していくと思いますので、今度の補正だけではなくして、来年度もこの予算はぜひ計上していただいて、CO₂の削減に努めていただきたいというふうに思います。

そして、いろいろパンフレット等とかなんとか見ておりますけれども、新聞で、22年4月から太陽光サーチャージャー料というのを負担せにゃいかんというようなことを書いてあります。この太陽光発電を設置したら、11月からですか、電力会社が1キロワット当たり58円で買い取るということで、非常に話題になっております。このことについて、サーチャージャー料というのが、何かわかりますかね。（発言する者あり）

これは新聞ですけれども、このサーチャージャー料というのが、電力を1キロ当たり個人の家から58円で買うと。その買い取った金は、電力会社が取らんじゃなくて、要するに私たち電気を使用している人全部から取るということらしいです。ですから、今度は売る人はよかでしょう。私たち使用する人は、その人たちの負担を我々がせにゃいかんという格好になるわけですね。ですから、これからはこれはもっとふえると思います。

私、設置をした人に聞いてみましたが、私の知り合いが設置したのは3.15キロを設置してありました。その3.15キロは、国の補助が1キロ7万円の補助ですから、22万500円。そして、エコキュート補助金といって、給湯器がエコの給湯器らしいです。それをつけたら、それが4万1,000円の補助があったと。それで、補助合計が26万1,000円だったと。大体1キロの機械をつけるのに100万円ほどかかるそうですね。ですから、今回、武雄の場合やったら、これにまた25万円まではいかんですけど、3キロですから15万円ちょっとですけれども、それぐらいかかりますから、非常に安価でできる。そして、58円で電気を買って取ってくれるということです。しかし、負担は皆さんにもかかるということですから、やはりこれからはつける人が非常に多くなるのじゃないかというふうに思います。ですから、来年度もこの補助をぜひ継続していただきたいということをお願いして、次の問題に移らせていただきます。

次、災害の問題について質問します。

ことしの7月25日から26日ですね、武雄市内も440ミリぐらいの雨に見舞われ、平成2年の水害を思い出したところですよ。六角川、松浦川につきましては、国の事業で年次的にでも整備が行われているようでございます。

私は、今回の7月25日、26日の水害で、特に目の当たりにしたのは、これまでは水位が上がらなかった場所で河川のはんらんがあったということです。特に朝日町の甘久川、水位はこれまででは経験したことがないような早い時間で、被害も非常に多かったところですよ。私も消防団生活40年近くしまして、あそこは私も毎年行っておりましたが、あのように急激に水位が上がったのは初めてだったわけです。

そこで、ああいう河川、そして水害等のときに——今回の水害につきましては、非常に短時間で急激に来たということで、河川に土砂が物すごく流れ込んでおります。そのようなことで、しゅんせつとか、大きい川についてはちゃんと管理道路もありますし、いいですけども、上流のほうに行ったら管理道路もない、人力でせにゃいかんというところがあるわけですね。そのようなところで、そういうのはどのようになされているのか質問したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

河川のしゅんせつの件でございますが、市で管理している河川については市がするわけですが、地元で——地元と言ったらおかしいですかね、地区内に流れている小さな河川ですね、これにつきましては、沿線住民の方々にお願いしているというのが現状でございます。ただ、どうしてもしゅんせつとなれば、重機を使わにゃいかんような場合もございますので、そういう場合は市のほうで、予算の範囲内で順次しているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、私、甘久川のことを言いましたけれども、ちょっとわかりづらいですけども、写真を持ってきました。（写真を示す）これが甘久川です。こちら辺が甘久の公民館です。こちらのほうにトライアルがあります。ここに井堰がありますけれども、井堰からここは市道です。市道と井堰、この水面までは約2メートル弱あります。ここが水害のときには物すごくつかるところです。そして、この井堰の下は約3メートルぐらいの深さがあります。そして、上流のほうについては、もう2メートルぐらいいかずとありません。この地区というのは、上流は赤穂山の堤が上流です。ですから、あの地域というのは、新興住宅がずっと建ち並んで、それこそ物すごく住宅が建ち並んでいるところです。

私、農業委員会をお願いをして、農地を宅地に転用した書類をいただいてきました。武雄市全体で、19年、20年、21年で6万8,000平米の農地が宅地になっております。その中で、この甘久川に水が流れるその地域、いわゆる富岡の川良、そして甘久地区でございますけれども、甘久地区につきましては、3年間で1万1,625平米、富岡地区が6,957平米ということで、甘久というのは物すごく宅地化しているわけですね。甘久地区の上流というのは、ほとんど段々の田んかのようになっておりますから、水を含む場所がございません。ですから、急激にもう河川に流れてしまって、今回大きな水害になったのがこの地区なんです。ですから、確かに宅地になって家ができて、人口がふえるのは大変結構なことでございますけれども、その前に、やはりこの河川の整備を先にせんという、これからまだまだ富岡、川良

地区も宅地ができると思いますので、いわゆるそこら辺の甘久川の上流のほうの整備は考えられないか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

甘久川の上流のお話は、議員からのお伺いをいたしました。私も実際、さきの夏の大水害のときは、吉川議員から電話があつて、高橋川に早く来てくれということがありまして、私は高橋川におりました。そして、議員から御指摘のあつたように、思いもしないスピードで、もうひざ上まで水が入っていったと。これは甘久川の上流だけでなく、例えば、高橋川、そこから淀姫神社のほうに急行しましたがけれども、そちらのほうでもさまざまなやっぱり問題、課題があります。ただ、我々として認識をしなきゃいけないのは、さきの大洪水が、じゃあ毎年起こるかということは、それはないと思っております。あくまでも、やっぱり平成2年以來の大洪水だったというふうに認識をしておりますので、大洪水に備えたあり方、それと限られた予算なので、毎年起こり得る災害のあり方を総合勘案して、武雄市全体でやはり優先順位をつける必要があるだろうと認識をしております。そういった意味から、甘久川の改修について、優先順位とほかの河川との比較において最終決定をしてみたい、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

今、私、改修をと言いましたけれども、ここに甘久の、要するに公民館前に井堰があります。この井堰というのは、富岡茶場に流す農業用水利があるわけですよ。ですから、この井堰というのは、これまでもう何十年、何百年も、結局水の、農業用水の分岐点というところで、これまでも全然改修がなされなかったという場所なんです。ですから、これを改修するとなれば、この小楠地区とか川良地区との農業用水の確保の問題が生じると思いますけれども、ぜひこれは双方寄り合っていて、そして一日も早くこの井堰の改修をお願いしたいというふうに思うところです。

次に移りたいと思います。次は橋梁、橋についてお尋ねをしたいと思います。

市内には国道、そして県道、市道とありますけれども、橋梁の検査をしたことがあるのか。また、橋というのは耐用年数がどれぐらいなのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

まず、耐用年数ですが、橋梁の場合、目安を50年としております。それと橋の数も言われ

ましたかね。（発言する者あり）これは橋の数といえば500ぐらいあるわけですね。ただ、橋長が15メートル以上の橋は88です。それ未満まで合わせますと500を超えると、530ちょっとあります。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

この新聞ですけれども、佐賀市が検査をしたと、点検をしたということで新聞に載っておりますけれども、やはり15メートル以上というふうに書いてあります。その小さな橋は余り問題になっていないようですけど、15メートル以上の橋については早急にというようなことがあります。この15メートル以上の計画を策定したら、国からの補助が2分の1あるということで書いてありました。そのようなことで、武雄についてもそのような点検をされたことがありますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

本市の場合は、点検につきましては22年、23年、この2年間で点検する予定です。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

22年、23年に点検をするということでございますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

それで、何で私、これを聞いたかという、私、ちょうどいろいろ水害のときに遭遇したんですけれども、平成5年の水害のときに、今現在の国道498号線の年玉橋が水に流されたんですよ。そういうことがあったものですから、それまでは橋が本当に水害で流れるかというのは余り頭にもなかったわけなんですけれども、やはり平成5年のあの水害のときに橋が流れたのを目の当たりにして、そして今回、その佐賀市の橋の延命の点検ということが載っていたものですから、こういう質問をしたわけです。ですから、ぜひ今回、22年、23年と点検をしていただいで、もし悪いところがあればぜひ、そして安心、安全のためにひとつ貢献をしていただきたいというふうに思います。

次に、公共施設の駐車場について質問をさせていただきます。

私は、特に学校、そして、公共施設の公民館の駐車場について質問をさせていただきたいと思ひます。

武雄市内の小・中学校でいろいろ行事もあっておりますけれども、駐車場がどのように確保されているのか。大小言ったら失礼ですけれども、大体小学校、中学校で自動車の駐車場

がどれくらい確保されるのかお尋ねしたいと思います。各行事のとき、学校については入学式とかと卒業式、運動会とかそのようなときに、十分とは言えないとは思いますが、現在対応ができていますのか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

お尋ねの件でありますけれども、事業内容によって若干違って来ようというふうに思いますが、今の車社会の中では、すべてパーフェクトということにはなかなか得ないだろうと、そういうふうに考えているところです。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

なぜ、私、これを質問したかという、実は、ことしの9月13日、朝日小学校と朝日の町民運動会を合同でしました。そのようなことで、ごらんとおり、朝日小学校のグラウンド、すばらしいグラウンドをつくっていただきまして、あれは1万平米以上ありますね。その割に駐車場がないというようなことで、非常に今回苦勞をしてきたところです。それで、私は、まちの交通安全協会もやっておりますので、非常に駐車場のことについては指摘をされておりましたので、そのときに1台1台チェックをしてみました。ところが、そのときに650台の車が学校周辺に集まりました。そして、民間の駐車場もお借りはしておりましたけれども、大体その駐車場におさまった数は350台ほど入っておりました。というのは、学校の駐車場、公民館、そして民間の方の土地を借りてということで350台ぐらいは収容できておりました。そのあとの300台が問題なんです。国道498号線にずらりととめて、そして歩道が3メートルほどありますので、歩道にもとめて非常に問題になったところです。そして、そのときには交通指導員さんにも出動していただいて、駐車場の整理をしていただきましたけれども、もう遠くは朝日ダムのところまでとめてあり、非常に指導員さんから、「あがんとところに車ばとめさせて」ということで、物すごくおしかりを受けたところです。ですから、その行事のやり方もあると思います。もう車では来てくれるなとかということもあると思いますけれども、この駐車場対策が朝日小学校近隣にどうかできないか。

そして、もう1つ。私がそのとき、1台1台数えて、650台来たというのは、10月18日に県民体育大会の相撲競技をしなくてはいけなかったわけですね。そのときに、車がどれくらい収容できるかなということで1台1台数えたわけですが、やはりその10月18日の県の相撲競技大会にも350台ぐらいの車が来ました。そのときは、350台ぐらいだったですから、民間の駐車場もお借りをして、どうにかそのときは収容できましたけれども、これがやはり、今、学校のグラウンドを見ますと、毎晩、夜はナイターがついて夜遅くまで、そして土曜、

日曜もグラウンドゴルフとか、いろいろな行事がっております。それで、もう駐車場に四苦八苦しておりますので、何かいい策はないかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、朝日小学校に限って言うと、駐車場はもうこれで必要十分だと思っております。とりもなおさず、確かに私も朝日町民の体育大会のときに元気よく走りましたけれども、あのときの六百数十台というのはありがたい御指摘をいただきましたが、ほとんど何か一家に1台じゃなくて、1人1台で見えられている。それと、やはりそれがもし半分になったら、300台だったら十分吸収できるわけですね。ですので、駐車場をいたずらにつくるのではなくして、もしそのスペースがあるとするならば、私は、例えばグラウンドゴルフの場所であるとか、あるいは公園であるとか、そういったことをするのが市民の福祉の維持向上につながるというふうに認識をしております。

そして、もとより、私も朝日の出身でありますし、いろんな地域回りをしているときに、日々のところで、私自身、今そういった苦情は聞いておりません。確かに年に1回の体育大会のときは、私はそういったソフトの対応で必要十分だと認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

確かに市長の言うように1人1台で来る人もおるし、5人乗ってくる人もいます。それは、やはり主催者側がそのようなお願いをしているわけです。そして、やはり朝日の区長さんあたりは、まちづくりの金でもいいからつくらばいかんとやなかかという話も出ております。ですから、確かに学校の行事ですから駐車場をどんどんどんどんつくれということではございませんけれども、やはりそれに携わる人の苦労も知っていただきたい。そして、できることならば、要望をしたいというふうに思います。

では、次の問題に移ります。

私、市営住宅のことについて通告をしておりましたけれども、きのうの2番議員の質問で、答えは出ました。私が聞きたかったのは、ことしの3月議会だったと思いますけれども、老朽化した市営住宅を改築できないかということで質問したところ、今年度中に計画を立てますということでしたから、要するにきのうの質問で答えはいただきましたので、それはおろささせていただきたいと思います。

そしたら、住宅問題であと1点だけお尋ねしたいと思います。

雇用促進住宅についてでございますけれども、県内に14施設ある中、これも3月議会ですとしたいと思いますけれども、市長は5,400万円で機構から買い受けをするという答弁がありま

した。そのようなことで、その後の進捗状況がどのようになっているのかお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当に厚生労働省はけしからんと思いますね。私が、これは山口良広議員の御質問だったと思うんですけども、これを受けて真摯に市は買い取るということを申し上げて、その数日もしないうちに、いや、やっぱりこの話はなかったことにしてくれということと言われて、もうどうなってんだろうと思いますですよ。人の住むところというのは、やはり一番我々が大切にしなければいけないこと、それを何と言えがいいんですかね、何か方針を後出しじゃんけんのように変えていくということについて、私は非常に不思議な感じを持っております。

そして、今、これも特定の名前だけ出して申しわけないですが、山口良広議員が地元におられますので、よく住んでおられる方々の気持ちとかというのを私に伝えていただきます。そういった中で、今のところ、私どもが聞いている話については、雇用促進住宅は従来どおり継続して、入居希望者を受け入れられておるという状況にありますので、早目早目にやっぱり——これは厚生労働省という機構になるかもしれません。しかし、これは住宅政策としては所管は厚生労働省でありますので、しっかりとの方針をやっぱり示してほしいなという事は思っております。

いずれにしても、もし厚生労働省から——今、玉は厚生労働省にあるというふうに私は認識しておりますので、玉が投げ返された時点で、そこにお住まいの皆さんたち、地域にとってベストな方法をとってまいりたい、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番吉原議員

○21番（吉原武藤君）〔登壇〕

私も、やはり入居者から不安だということで相談を受けましたので、いや、しかし、武雄市が買うごとなつとるばいということを言うておりましたけれども、福岡のほうに電話を入れてみました。そしたら、そこら辺については濁して、余りはっきり言わんのですよね。ただ、私が聞いたのは、22年1月1日付で、有田町には譲渡しますと。そして、入居停止をしているのが伊万里、多久の2施設で、伊万里、多久はもう解体をするんだとは言われましたけど、武雄については、今まだはっきりしておりませんというようなことで、はっきりしてもらわんと困りますよと私も言いました。入居者があるんですよと言いましたけれども、武雄市にはそういうふうな返事が来ているわけですね。（発言する者あり）はい、わかりました。要するに、私も福岡の事務所からは濁されました。

ということで、私の質問を終わらせていただきます。